



# 絆



## 神さまへの贈り物



## [變臉] へんめん 腹 この権に手をそえて



「絆」モンゴル

# 9/17(水)

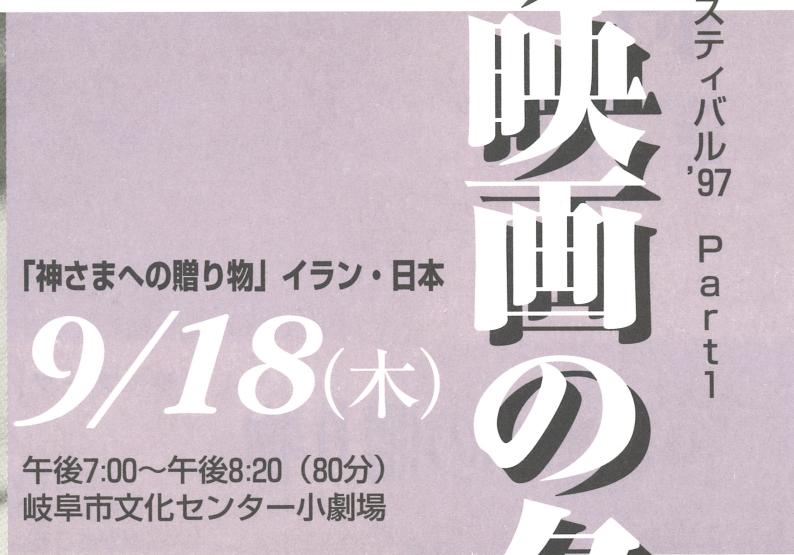
午後7:00～午後8:20 (80分)  
岐阜市文化センター小劇場

# アジアア映画の夕べ

「神さまへの贈り物」イラン・日本

# 9/18(木)

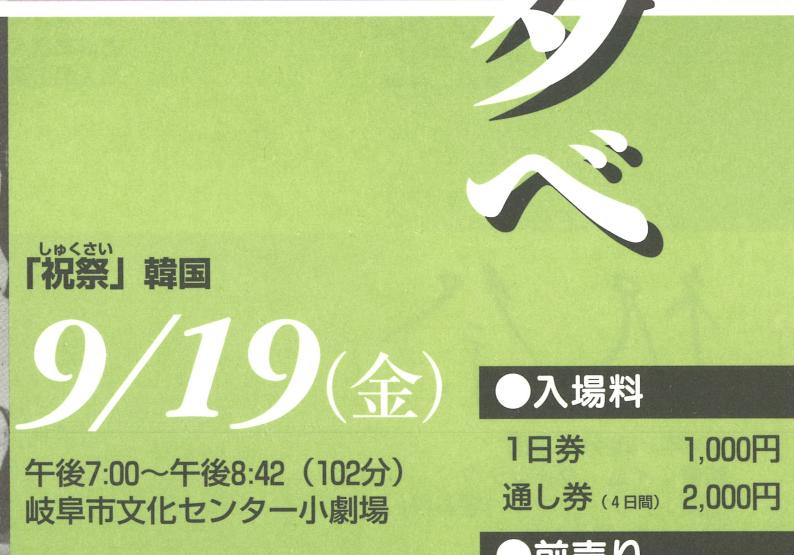
午後7:00～午後8:20 (80分)  
岐阜市文化センター小劇場



「祝祭」韓国

# 9/19(金)

午後7:00～午後8:42 (102分)  
岐阜市文化センター小劇場



### ●入場料

1日券 1,000円

通し券 (4日間) 2,000円

### ●前売り

平成9年7月1日 (火)

午前8時45分から

岐阜市文化センター

☎058-262-6200

岐阜市民会館

☎058-262-8111

長良川国際会議場

☎058-296-1200

の事務所にて発売開始。同時に電話による予約も受付開始。

また、チケットぴあ、各プレイガイドでも同日より発売開始。

●主催

岐阜市

財団法人岐阜市公共ホール管理財団

●後援

岐阜県教育委員会

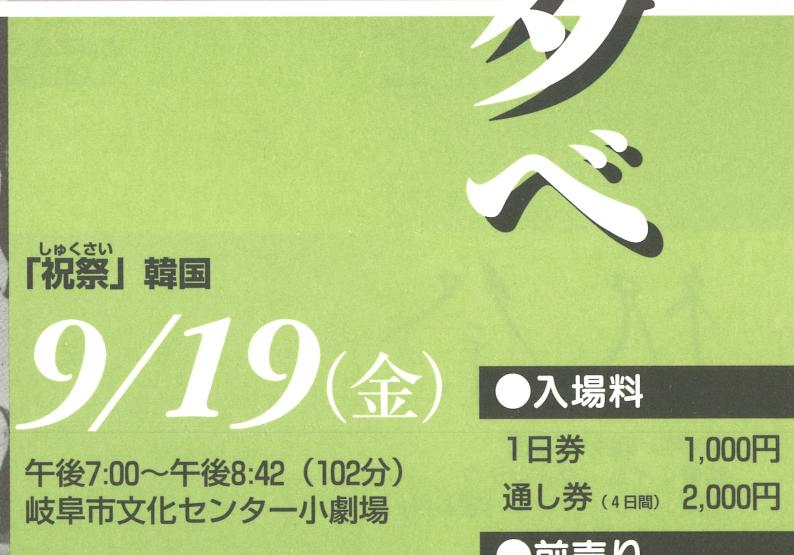
財団法人岐阜県国際交流センター

国際交流基金

「變臉—この権に手をそえて」中国・香港

# 9/21(日)

午後1:30～午後3:11 (101分)  
岐阜市民会館大ホール



# アジア映画の

第173回市民の劇場 アジアフェスティバル'97

part1

タベ

糸

1992年／80分／モンゴル  
監督：J. ピンデル  
出演：G. オルナー  
スフホヤグ

世に比類なき母の愛、母と子の”絆”を描いた秀作。

モンゴル映画界で活躍中のJ. ピンデル監督のデビュー作である。  
フランスやスイスなどの国で上映され、多くの観客の心を引きつけ、共感を得た。  
目の不自由な母とその子は、余儀なく離れ離れに生きていかねばならなかった。  
しかし、子どもの命の炎が消えようとしているその時、子を救ったのは産みの母だった。  
母子の絆=へその緒のつながりは、誰も絶つことはできなかった……。  
母と子のつながりを通して、モンゴルの「道徳」が描かれている。

神さまへの贈り物

1996年／80分／イラン・日本  
監督：モハマッド＝アリ・タレビ  
出演：マスメ・エスカンダリ  
ジェイラン・アバッザデ

『ザ・ブーツ』、『チック・タック』の  
モハマッド＝アリ・タレビの新作。

お茶目な女の子と、いつもその子の奔放な動きにハラハラしている近所の貴婦のあるおばあちゃん。二人はお米を買いに街へ出かけるが、行く先々でハプニングがおこる。  
テヘランの街でいろいろな人に出会い、助けを借りるが、不幸は続く。  
おばあさんは祈る。「神さま、どうかお米を無事家に持って帰れますように…」  
二人のお買い物はうまくいくのか？神さまは願いを叶えてくれるのか？

祝

1996年／102分／韓国  
監督：イム・グォンテク  
出演：アン・ソンギ『眠る男』  
オ・ジョンヘ  
『風の丘を越えて～西便制』

アジアの巨匠、イム・グォンテクが贈る、  
生の歓びと再生を謳った、感動の物語—。

主人公の人気作家には、『眠る男』（96年／小栗康平監督）の主演で日本でも新たなファンを獲得した世界的スーパースター、アン・ソンギ。『風の丘を越えて～西便制』でのすがすがしいデビューが今も記憶に新しい女優、オ・ジョンヘが共演している。音楽は『風の丘』に引き続き、韓国ニューミュージック界の旗手、キム・スチヨルが雄大な自然を背景に伝統音楽とポップスとの融合をはかりながら悲しみの中にも昂揚感のある美しい旋律を聞かせている。

高名な作家の母が亡くなり、葬儀には様々な人々がつめかける。葬儀が進むにつれ、集まった人々の人間関係はもつれ合い、酒や唄や踊りと共にまるでお祭り騒ぎのようにエスカレートしていく……。

[變へんめん臉]  
この權に手をそえて

1996年／101分／中国・香港  
製作・監督：吳天明（ウー・ティエンミン）『古井戸』  
出演：朱旭（チュウ・シュイ）『大地の子』  
周任瑩（チョウ・レンイン）  
音楽：趙季平（チャオ・チーピン）  
『紅いコーリヤン』

老芸人の願いはただひとつ。少女の思いはただひとすじ。

第9回東京国際映画祭／最優秀監督賞（吳天明）・最優秀男優賞（朱旭）受賞。  
第16回中国金鷄獎／最優秀合作映画賞・最優秀監督賞・最優秀子役賞受賞。  
監督は第2回東京国際映画祭で、グランプリに輝いた『古井戸』の吳天明（ウー・ティエンミン）。主演は95年NHKと中国中央電視台との共同製作『大地の子』で日本人戦争孤児の養父役を存在感ある演技で好演し、日本でも一躍人気を博した朱旭（チュウ・シュイ）。

芸の後継者となるべき男の子を望む老人と、ぬくもりを求める寄る辺のない少女。  
それは老人にとって失意の出会いだった。空回る少女の懸命の愛と、それをあざ笑うようにしのびよる運命の黒い影。

中国・四川、長江のほとりを舞台に、無垢な魂のふれあいを描く感動作。